

シリーズ グローバル・ジャスティス第 58 回『告白—満蒙開拓団の女たち』を製作して」

2018 年 1 月 10 日(水)、烏丸キャンパスにて、第 58 回グローバル・ジャスティス『告白—満蒙開拓団の女たち』を製作して」が開催された。今回は、2017 年 8 月 5 日に放映された『NHK・ETV 特集 告白—満蒙開拓団の女たち』を上映し、その後、番組を制作した川恵ディレクター (NHK 名古屋放送局) による講演をいただき、その後、質疑応答を行った。

本番組は、川ディレクターが当初に制作していた岐阜県蛭ヶ野に関する他の番組の制作が終了した後、再び行われた取材をもとに制作された番組である。当初は、蛭ヶ野の取材が番組制作の目的であったが、取材のなかで蛭ヶ野の住民のはるみさんから、蛭ヶ野にはその昔、黒川開拓団と満州と深いつながりがあったことを聞く。それは戦前、黒川開拓団として入植した岐阜県の住民が終戦後の引き揚げの際に「性接待」が求められたことであった。当時の黒川開拓団の公の記録に彼女たちの経験が記されることはなく、戦争の表舞台では明るみにされてこなかった。しかし近年、開拓団員の一人の父親が自身の手記を公開し始めるなか、記録文書には存在しなかった彼女たちの体験が知られるようになり、また自身で当時の経験を語り始める方がいることを聞く。こうしたことから、番組取材が終了した後、蛭ヶ野の取材には黒川開拓団と満州の歴史という角度から再度、取材をする必要があると考え、作成されたものであったということだった。

岐阜県の山間地から旧満州・陶頼昭に入植をした黒川開拓団は約 650 人。終戦直後の旧満州では、住民による開拓団への襲撃が起こっていた。その際に開拓団が助けを求めたのはソ連兵であった。その際、ソ連兵は開拓団の護衛を引き受ける代わりに、開拓団女性に接待を求めた。開拓団は娘たちをソ連兵に差し出すが、彼女たちに求められたものは性接待であり、望まない性行為を強要されることとなった。

上映後の川ディレクターの講演と質疑応答では、政治的立場をめぐる番組制作の困難があったのか、取材される方の高齢化に伴う問題があったのかなどについてお話し頂いた。さらに、今まで記録に残されなかったことを、これからどのように記録して、伝えてゆくのか。私たちはどう、過去の歴史をこれからの世代に伝えてゆくべきなのか、また伝えることができるのか。そうした、今を生きる我々の生き方にも通ずる問題をめぐり、積極的に議論が交わされた。

(文責 横山将大)